

童心を友として

大塚喜一

本年名古屋に於ける全國幼稚園關係者大會に於て『幼稚園に於ける談話の基本的態度如何』なる問題に就て、實際家諸賢の後に僕も愚見の一端を述べさせて頂いた、その速記はいづれ本大會記録に出るさうだから其方に譲ることとし、茲には右の發表の中にて「生きた實例」として引用させて頂いた雑誌「話方研究」第七卷第五號（本年四月二十日發行）所載の

鈴木すみ子先生 一年生を持つてみて

なる體驗手記全文を松美先生の御許諾を得て紹介し、次に本文に就ての僕の感想を述べたいと思ふ。斯くする事によつて僕の云はんと欲する「基

本的態度」を最も切實に鮮明に讀者諸士に傳へる事が出来ると思ふからである。

* * *

ずむぶん永いこと、一年生の先生で通つてきた私が、全校兒童とよく親密に結びついたのは、お話の力であると思ひます。

初學年の兒童は遊戯を全生命とするから、一年生の擔任は遊戯がよく出来なければならぬときいて、此の熱心な研究者となつた新卒第一年間は、誠に若くて青春の血に漲つてゐたものでした、然し此の元氣は永く續かなかつたのです。三年目の秋、猛烈な胃痙攣をやつてからといふものは、昔

の意氣を出す事が出来なかつた、一年生の先生としての資格は全く失はれてしまつた。そして童心の失はれたヒステリックな先生になつてしまつたのでした。今思ひ出しても、よくあんな氣持で、可愛い、幼兒に接したものだと思ろしい様な氣がしました。

こんな先生になつてしまつた私は、遊戲に變るべき一年生の先生としての修養をする事につとめて見ました。

一筆略畫を習ひ、手技を覚え、オルガンを奏する事を勉強しました。けれども何となく兒童との間が親密に出来ませんでした。

或日他から轉校して來た一生徒が

「先生私おもしろいお話知つてるのよ」
 と言つて、あんなさんが象見物に行つたお話をしてくれました。まあそのあとけない顔、私もたまになくなつて

「先生もお話を一つして上げませう」

といつて、母から寐ものがたりにきかせられた、すずめの話をしてやりました。ところが

「まあ先生、おはなしがお上手ね」

兒童等は話が終わると一しよに、こう言つて拍手をしてくれました。私はなんだかきまりが悪くなつて赤面してしまひました。子供に褒められて赤くなるなんて、お恥しいじやありませんか。

翌日始業時に教室にのぞむと、兒童等は

「先生お早う。おはなしして頂戴」

と叫びました。おはなしは用意して來ないと斷つても

「先生昨日のおはなしして頂戴」

「すずめさんのおはなしでいゝの」

大騒ぎです。

「え、きのおはなしでいゝんならして上げませう」

私は又すずめのおはなしをしました。してゐるうちに昨日よりは落着いて上手に話してゐるような気がしました。話が終ると児童たちは一しよに拍手を送つてくれました。まあ同じ話を二度もきいて何がおもしろいんでせう。

休み時間に運動場に出ると、知らない他級の生徒がとんで来て

「先生おはなしきかせてよう」
とせめつけます。ここでも又すずめのお話をきかせました。二度目よりはお話の仕方が大ぶ上手になつた様な気がします。其翌日からは、一日に一つづつ、キットお話を用意しておかなければならない様にさせられてしまひました。

「鈴木先生はおはなしがお上手よ」

こんな噂があちこちにきこえる様になつて、急に児童たちに身邊を擁護されてゐる様な氣分に充される様になりました。

或る日、學校から歸る途中の事でした。可愛らしいおかつばさんが向ふから來ましたが、いきなり兩手で私の右手をつかまへて

「せんせい」

と甘えにかゝりました。はて誰だらう？

「あなたどなた？」

とさゝますと

「あーらいやだ、私一年の四組よ」

知らない筈だ。自分の受持ではなかつたのですもの。

「まあそうですか」

「先生はい、先生ね」

「まあそうですか」

「先生又私の級へ来てお話しかせてねえ」

おはなし即い、先生だつたのです。

これ程お話を通じて、先生と児童とが接觸する様になると、うつかりしたお話は出來ないと思ひ

ました。丁度昨年の四月、松美先生の童話の講習
に出席しました。

僅か一日の先生の講習が、實に有益でありまし
た。井中から這上つた蛙が、漸く大海の廣きを知
つた私は無鐵砲にやつて來た童話の足跡を眺め
て、戰慄を覺えました。此の講習と同時に日本童
話聯盟に加入して、度々の研究会に出席し、幾分
か自信もつき、殊に我が校内に童話部をおいて戴
く事も出來ましたので、時々童話會を開いて兒童
と共に楽しんで居ります。此様にして全校生徒と
は、何時何處で行き逢つても、にこにことして特
別の親しさを以て迎へてくれるやうになつたので
あります。(昭和六、三、二三)

* * *

話方研究第七卷第五號を手にして、先づ目次の
「一年生を持つてみて」に目を引かれた。實際家
の體験談を平生から聴きたく思ふてゐるのでむさ

ぼるやうに讀んで行く中に、鈴木先生の歩んで來
られた道が僕とよほどよく似てゐる事、殊におは
なしに就て僕が考へてゐる事や云はんと欲する心
持等を明に事實に示されてゐるので、同志の友を
得た喜を感じました。依て茲に本文に對する僕の
感想を述べて、讀者諸士と共に此の貴重なる體験
記録に就て學びたいと思ひます。

先づ、眞劍な先生の御修養の數々に對して敬意
を表します。かうして絶えず道を求めて止まなか
つた努力が、或日幼い生徒のしたお話によつて、
童心の共鳴にまで高まつて來たやうに思はれま
す。子供のあどけない話振りによつて先生の童心
を揺り動かされて、お母様から幼き日に聽かれた
すずめのお話をなさつたところ、親心子心の融和
と申しませうか、これこそ眞實なる教育者の態度
であり、こゝに先生の御成功の契機が存するので
あると思ひます。果せる哉子供達は幾度もこの

「すずめのお話」を求めて居り、先生も又一回毎に洗練せられたる「おはなし」としてきかせてゐられます。

此間の情景は本誌本年三月號所載の拙稿「幼な心へのお話について」中の「幼児の好きなお話を何回も繰返して話せ」なる項目の下に記した僕の考を事實に證明するものであり、その餘りに明かなる一致に驚かされる程です。

鈴木先生が始めてこのお話をせられた時、「まあ先生おはなしお上手ね」と言つて拍手した子供たち！これは「先生、私たちの好きなお話を聴かせて下さつて有難う」と、幼児の世界に遊び得た喜びの表現でせう。決して末技の上手を言ふものではありませんまい。子供達との親交を求めてゐられた先生として、どうしてこの言葉に感激せずには居られませうか。自分の心が子供達に通じた事、更に切言すれば童心に共鳴し得た事を感知するの

は、我々にとつて最も喜ばしい事です。この感激この共鳴が先生の人生に於ける大なる力となつてずん／＼進んで行かれた有様が明に讀まれます。

殊に「児童たちに身邊を擁護されてゐる様な氣分に充される様になりました」と云はれた心境こそ、實に先生として童心藝術にいそしむ者として最も祝福された境地ではありますまいか。お話は實に先生と子供たちとの直接交渉です。電氣の火花を散らす様な、間髪を容れざる心と心との感應共鳴の道場です。子供たちがその幼な心のすべてを傾注しておはなしに聴き入る時、その輝く眼の奥に潜む童心の寶玉が話者の心に反映して、自分はお話をしたのではあるがホントウの心もちを云へば子供たちから尊い心の糧を頂いたのです。こうした經驗を幾度か繰返す毎に、我が胸に抱く童心の寶玉がだん／＼に大きく育てられて行きます。そして何處へ行つても失はれる事無く、いつも自分

の力となり慰めとなつて呉れます。お話を聞いて居る子供達の心がいつも我がハートに住んでゐるごでも申しませうか。斯うした心持は僕だけではないと思ひます。

讀者諸士の中には既に斯うした境地に達してゐられる斯道先輩諸賢もおありであらうと思ひますが、若し斯うした境地に達せん事を望まるゝならば、「おはなし」といふ自分對子供達の直接交渉を第一義として、あなたの子供達があなたのおはなしを聽いてゐるのだといふ嚴然たる事實を正面向ら眞剣に直視して頂きたいと思ひます。そうすれば、自分のお話を誰か、横で傍聽してゐると恥しいとか、同じ童話を何度もしたのではあの人はお話の話しが知らないと思はれるとか、そんな大人の世界に屬する事は、一度自分が子供達の前に立てば殆ど問題にならない瑣事になつてしまつて、お話そのものに全精力を傾注する事が出来るやうに

なるでせう。又一方、子供達にも充分にお話を樂しみ得る様にその心への影響を配慮してやる事です。例へば、話が濟んですぐ他の事をやらせたり、今度は自分達がさせられる番だ等思はせないやうに、一園の保母達が誰も皆今迄述べ來つたお話の世界の消息に通じて居り、少くとも「おはなしは保母の生命である」といふ心もちがわかつてくれさへすれば、一人の保母がお話をしてゐる時はその氣分を壞さないやうに御互に注意するやうになり、子供たちの前には皆が初心者であるといふ謙虚な心を以て御互の經驗を語り食ふ事が出来るやうになるでせう。偽りの多い大人の世界に比して、お話の世界のみは我等に與へられたる地上の天國であり、其處に輝く童心の光に導かれ勵まされ慰められつゝ不斷の精進にいそしむ事こそ最も生甲斐ある我等の人生であります。